

卒業と進級 おめでとうございます！

本日3月21日（金）、令和6年度の修了式を終えました。残すは週明けの卒業式のみです。今年度もあっという間の1年間でした。運動会や学習発表会などの全校行事、修学旅行・見学旅行などの学年行事、学校内外でのたくさんの体験学習、それに日々の授業や給食・掃除等の積み重ね。PTAや地域の方による行事もいろいろありました。この1年間、子どもたちはたくさんの学びや経験を重ねてきました。これも、保護者の皆様、地域の皆様が学校教育活動にご協力、ご支援をいただいたおかげです。心より御礼申し上げます。

今日、無事に修了式を終え、いよいよ月曜日は卒業式。卒業生も在校生もたくさんの時間をかけて練習し、卒業生の最後の晴れ舞台を作り上げます。主役である卒業生はもちろん、全校児童ですばらしいものにしてけると確信しています。

四小っ子全員の進級と6年生の卒業、おめでとうございます。皆さんの4月からのますますの活躍を、楽しみにしています。



修了式 1年間の課程を修了

校歌「咲きほこる」を 誇りに 四小でつながる仲間

今日の修了式では、各学年代表が1年間を振り返る発表をしました。続けて、別の各学年代表に修了証を手渡し、校長からの話をしました。今回は1年の締めくくりにあたり、校歌について次のように話しました。

校歌にはすばらしい歌詞がたくさんあるが、まずは「光の中に生きる子われら」。皆さんは、光の中にある。そして、やがて自分自身が光り輝いて、周りを照らす存在になってほしい。

それから「希望にあふれ喜び満ちて 五百の命五百に伸びる」も四小らしい、一人一人を大切にしたい歌詞。

校歌は、その学校にいたことのある人しか歌えない。日本の人口からしたら、ほんのちょっぴり。しかし、歌える人同士だったら「同じ学校にいたことがある」と分かる。校歌「咲きほこる」を歌える人は、みんな南関四小でつながる仲間なのだ。……こんな話でした。

校歌の存在を大切に思い、24日の卒業式では、四小を通じてつながった仲間として、会場の全員で校歌を高らかに歌い上げたいものです。

学校の先生という仕事は、子どもたちの日々の成長の姿を一番間近で見ることのできるすばらしい幸せな仕事です。子どもたちに感謝して、この1年間を閉じていきます。春休みは事故や病気に気をつけて、元気に新学年を迎えてほしいと思います。

校歌「咲きほこる」
作詞・作曲 久富栄次郎

咲きほこる 花さくら
明るい窓は
ひろびろと 智恵ひらく 心の窓
美しく 美しく
光の中に 生きる子われら
やがてこの世の光となって
日本を 世界を 照らすのだ

風そよぐ プラタナス
緑の影は
歌声の わき起こる 楽しい木陰
やさしく やさしく
情けの中に生きる子われら
やがてこの世の木陰となって
日本を 世界を 包むのだ

迎えておくる ながい日 よい日
希望にあふれ 喜び満ちて
五百の命 五百に伸びる
南関第四小学校